



幸せ実感できるまちづくりを 布目ゆきお市政直行便

2023年夏号
NO.55

【編集・発行】

長野市議会議員・布目裕喜雄

布目ゆきお後援会

長野市安茂里小市 1-4-10 ☎227-3537

5期20年にわたるご支援に 心から感謝申し上げます。

市議選…出馬せず市議引退を決断、世代交代へ



私 布目裕喜雄は、社民党公認の市議会議員として、また地元・安茂里地区を代表する市議会議員として、5期 20 年にわたり、長野市議会で活動する機会を与您えていただけてまいりました。

この度、9月の市議改選にあたり、熟慮に熟慮を重ねた結果、誠に勝手ながら、出馬を辞退し引退する決断をさせていただきました。

安茂里地区を原点にしながら、市民が主役で、すべての市民が幸せを実感できる市政の実現をモットーに、格差と貧困の是正、雇用の安定、人権尊重、健康長寿で住み慣れた地域で住み続けられる福祉のまち、公共交通優先のまち、災害に強いまちづくりを重点に取り組んできたところ

です。皆様の負託に応える活動を成しえてきたのか、忸怩たる想いがありますが、改めて、私を支えていただけてまいりました地元安茂里の皆様、働く仲間の皆様のお力添えに心から感謝申し上げます。

幸せ実感できる市政へ…残る任期、全力を尽くす

5月頃より内々に地元安茂里をはじめ関係者の皆様に相談申し上げ、6月27日に全市的な総合後援会総会で、6月30日には地元の安茂里後援会の役員会で改めて出馬辞退の申し出をさせていただき、「極めて残念だが、やむを得ない」との深いご理解とご承諾をいただけてきたところです。

本来であれば、ご支持を賜ってまいりましたお一人お一人にご報告しご理解をお願いすべきところ、行き届かぬこととなり、大変申し訳なく思っております。

9月末までの任期いっぱい、幸せ実感できる市政の実現に向け、力を尽くす所存です。

安茂里育ち…新人・原ようこさんに希望を託す

9月の市議選につきましては、社民党として、私に代わり、原ようこさん（45歳、新人・安茂里育ちで上松在住）を無所属・社民党推薦で擁立することを決定させていただいております。安茂里からの後継者づくりを模索しましたが叶えられませんでした。勝手ながら、原さんの”安茂里つながり”にもご配慮賜り、バトンをつなげられるよう尽力する所存です。

原ようこさんは「子どもまんなか」のやさしいまちを掲げ、「誰も我慢しなくていい、皆が明るく希望をもって生きられる市政の実現」をめざしております（4面参照）。私が原ようこさんを応援する会（後援会）の会長を務めております。原ようこさんの抱負と政策に深いご理解と温かいご支援を賜りたくお願い申し上げます。

暑い夏に向かう折、どうかご自愛ください。末筆ながら、皆様のますますのご健勝をご祈念申し上げます。



長野市議会議員 布目裕喜雄

6月議会 トピックス

青木島遊園地廃止問題…何を教訓とすべきか、第三者交え検証を

住民を巻き込み、住民の期待を裏切る顛末となった青木島遊園地の廃止問題。住民本位の市政運営、当事者である子どもが主体となった子ども本位の市政運営、市行政の意思決定と説明責任、市民との合意形成に極めて大きな禍根を残しました。何よりも子どもたちに寄り添えなかったことが心底悔やまれます。

なぜ、市は迷走し住民の期待に応えられなかったのか、何を教訓とするのか、真摯な反省と今後の対応が求められるところです。

住民本位の市政運営求め、3つの視点での検証、第三者による検証を提案

私は検証する視点として3点を指摘、さらに第三者を交えた検証を求めました。視点の一つは、行政内部の意思決定プロセスに何が欠けていたのかといった視点で検証すること、二つに、「住民自治」を深め広げていく観点から、十分な説明責任が果たせたのか、区長会や住民自治協議会における十分な住民合意形成の在り方と市行政のサポートの在り方を検証すること、三つに、子どもに関わる施策決定において、当事者である子どもの意見を反映していくプロセスをいかに保障していくのか、の3点です。

市長…子ども達の考えを受け止めるための体制も検証、外部委員を登用

市長は、「検証を進める上で、意思決定にあたり庁内の進め方に一部至らぬ点があったことや



地区の役員に任せ過ぎたことなどについて検証が必要である。また、子どもたちの考え方や視点を受け止めるための体制も必要ではないかと感じている」と答弁しました。検証委員会には弁護士や大学等の学識経験者、行政経験者らを外部委員に登用する考えを示しました。住民本位の市政を実現できるのか、厳しいチェックが必要です。

プラザへの統合、遊び場の確保など青木島こども未来プランに実効性を

また、児童センターの子どもプラザへの統合や青木島小学校の中庭を遊び場として確保するなどの「青木島こども未来プラン」の実効性も質しました。市は「調整中」との答弁で、実効性にはいまだ疑問が拭えません。遊び場の確保には一定のスピード感が必要です。とはいえ、拙速に進めることなく、広く住民の声を聴き、見直すべきは見直し、住民合意最優先の対応を求めました。

子ども権利条例…「議会と協力して制定」の中身を質す



私はこの間、子ども達に「意見表明することができるよ。守られているよ」というメッセージを届け、権利の主体としての子どもの育ちを支えていくことが大切であると訴え、市独自の子ども権利条例の制定を強く求めてきました。

これまで「県の子ども支援条例で子どもの最善

の利益は守られる」として独自の条例制定を拒んできた荻原市長は、去る3月議会で「議会と協力して制定する」と姿勢を一転させました。子ども基本法の施行を踏まえ方針転換したものです。転換そのものは評価しますが、「議会と協力して」とする具体が何一つ示されていません。

条例制定を、広く市民の声を聴きながら、議会と行政の協働作業で進めるよう、議会との共同プロジェクトや研究会、議会の特別委員会の設置などを提案し、早急な具体化を迫りました。

市長は、「行政が案をつくり、“これでどうだ”という形ではなく」と述べたものの、具体的な提案には答弁を避け、「子どもたちも含めて幅広く意見を聞きながら、みんなでつくる条例を目指していきたい」と述べるにとどまりました。

「みんなでつくる条例」が具体的に体现されるよう、引き続きチェックと提案が必要です。

子どもに関わる政策に子どもの意見を反映することは責務 意見表明を保障する仕組みづくり、早急に

市独自の子どもの権利条例制定を待つまでもなく、子どもの意見表明権の保障は待たないです。4月に施行された「子ども基本法」は子どもに関わる政策に子どもの意見を反映させることを国や自治体の責務としました。

意見表明の保障は自治体の責務

しかし、青木島遊園地閉鎖の局面では児童センターの子どもの感謝の意を表す機会が大人の的外れで間違った考えにより奪われてしまいました。



た。子どもの意見表明権に対する認識、問題意識の欠落が招いた悲しい事態といえます。そもそも、遊園地の廃止に関し、遊園地を使用することの

意見を直接聴くことはありませんでした。

国では「子ども若者★いけんぷらす」といった新しい取り組みが始まり、東京都では小学生、中学生など及び未就学児の保護者を対象に「こども都庁モニター」が取り組まれています。本市における具体化、子どもに関わる政策決定プロセスにおいて、当事者である子どもの意見表明の機会を保障する仕組みをつくることが不可欠です。政策・施策の実効性を高めることに確実につながるからです。

実効性ある体制、しっかり検討する

私は、子どもの意見を聴いて代弁する仕組み「子どもアドボカシー」の整備や、「子どもの意見の尊重」を実現するための「子どもの人権オンブズパーソン」などを念頭に具体化を質しました。

こども未来部長は「今後、子ども権利条例を制定する過程において、他市を参考にしながら、子どもの意見表明を確実に支援できる実効性のある体制が構築できるよう、しっかり検討していく」と答弁。

「実効性ある体制づくり、しっかり検討」を約束した答弁。具体策はこれからですが、決意表明として前向きに受け止めましょう。

老朽化する母子生活支援施設…現在地での建て替えへ 早期事業化を迫る

子育て支援を進めながら母子の生活と自立を支援するため、児童福祉法に基づき設置される母子生活支援施設は、ドメスティック・バイオレンス（DV）被害者の一時保護施設として、さらに困難な問題を抱える女性への支援に関する法律の施行を控え、女性保護・支援が特段に求められている中、とても重要な施設です。しかし、現在の母子生活支援施設は、S53年に建設され築45年が経過、建物の老朽化が著しく、耐震性も確保されていません。さらに浴場、トイレなどは共同のま



まで生活環境も十分に整っていないのです。

早期建て替えを求め質問してから4年、「検討中」との答弁から、移転等が困難となる中、ようやく

「現在地での建て替えが最適」と答弁するに至りました。隣接する障害者就労支援施設との調整が残るものの、早期事業化を強く求めました。

12月議会 代表質問

荻原市長の就任1年となる昨年12月議会では、改革ながの市民ネットを代表して質問しました。

市長が掲げる「施策のアップデート」が真の市民益につながり、市民が幸せを実感できる効果を生み出すことができるよう質しました。まちづくりアンケートの「市民が求める施策の優先度」で上位を占める「防災・減災対策の推進」、「介護などの高齢者福祉サービスの充実」、「バス・鉄道など

利用しやすい公共交通の構築」などに真摯に答えることが不可欠です。

私が求めた不登校児童生徒に対する居場所の確保、学びの保障では「教育支援センターSaSaLAND」の新設に、また市営住宅の入居条件から連帯保証人を不要とするなど、実現にこぎつけた施策も。荻原市長にはしっかり取り組んでもらいたいものです。



子どもまんなかのやさしいまちへ 市政に挑戦する原ようこさんを紹介します



議員を引退する私の後継として、無所属・社民党推薦で市政に挑戦します。教員経験があり、子育てど真ん中のママさん、誠実でバイタリティーがあり、“聴く力”を持っています。

「誰も我慢なくていい、子どもがのびのび育つ、皆が明るく生きられる市政」をめざします。長野市議会に女性パワーを。子育て支援先進都市に欠かせない人材です。

原さんの市政に臨む熱意に打たれ、私が応援する会会長を務めています。

45歳、安茂里育ちです。

実家は宮沖（行政区は西河原）、安茂里小学校、裾花中学校を卒業し長野西高に進学。東京家政大学卒業後、実家に戻り、非常勤の教員や民間で非正規労働者として働いてきました。結婚後は安茂里小市のアパートに住まい、上松に転居し6年です。バトンをつなげられるよう、力いっぱい応援しています。皆さんの声援を心からお願い申し上げます。



活動あれこれ PHOTO



写真上から◆5月1日メーデーで挨拶◆昨年11月荻原市長に改革ネットで新年度の予算要望◆安茂里地区の土木要望・現地調査◆安茂里スポーツ祭典・始球式◆6月核兵器廃絶を願い非核平和行進

子どもの医療費助成 18歳まで拡充 来年1月実施に

長年求めてきた子どもの医療費助成の対象拡大が実現しました、通院・入院費の助成が所得制限なしで高校3年生まで拡大します。

窓口で支払う受給者負担金（レセプト代、最大で500円）の段階的な無償化に向け、さらに取り組みが必要です。

編集後記 ◆コロナ禍でご無沙汰が続き申し訳ありません。日常が戻りつつありますが、健康管理にご留意を◆6月議会が終わり、9月の市議選へ動き本格化。引退を表明させていただき、後継にバトンをつなげられるよう全力を尽くします◆相次ぐ大雨による甚大な被害、異常な気候変動に普段からの十分な備えを◆青木島遊園地廃止問題で市民本位の市政運営の底の浅さが露呈した荻原市政、厳しい監視と対案提案で、市民が主役の市政を取りもどしたい◆久々の市政直行便、意見をお聞かせください。夏本番！どうかご自愛を(布)